高島平緑地でBBQコンテスト

世界大会への出場かけ

トライアルサウンディングを利用

〝丸太公園〟

8月29・30日、高島平9丁目の高島平緑地（通称・丸太公園）で『BBQフェスタ2026 in 高島平』が開かれた。

このイベントは、現在板橋区が進める高島平緑地の再整備のために行なっている社会実験の、トライアルサウンディングとして開催された。

その中で、30日には『ステラ杯アメリカンビーフステーキコンテスト』が行われた。

日本では2017年にスタートしたこのコンテストは、全国各地で5回開かれる大会の一つで、優勝者はアメリカ・テキサスで行われる『SCAワールドチャンピオンシップ』に日本代表として出場できるというもの。プロ・アマを問わずに誰でも参加できる、世界共通ルールによる公式ステーキコンペティションであり、一枚のステーキを厳正かつフェアに審査することが特徴だ。



今回は高知や福井、福島ほか全国から14人が参加。開会式で肉の安全管理やルール説明がされ、コンテストが始まった。

まずはミートセレクション。抽選で順番を決め、運営側が用意した同じ種類・サイズのステーキ肉30枚から1人2枚を選ぶ。制限時間は1枚30秒。触ることはできないので、見た目だけで選んでいく。セレクションが終わると持ち場へ戻って調理を開始。スジや脂などを丁寧に取り除き、配合した液や野菜の酵素などで肉が柔らかくする作業を進めていった。

一方会場では、来場者がキッチンカーのフードやドリンクを楽しむ姿があり、世界大会出場経験のあるステーキの達人が教える『パパママのステーキ道場』も2回に分けて実施された。

午後1時になると、選手たちは焼き上げたステーキを提出。別会場で見た目、焼き加減、味、食感、総合評価の5項目で審査が行われた。

厳正・公正な審査の結果、横浜から参加した選手が優勝、賞金10万円と副賞、世界大会への切符を手にした＝写真。

実行委員長の檀上智紀さんは「そもそも東京でこの大会が開かれたことがなかった。場所がない。でもこれ（トライアルサウンディング）ではできるんじゃないかと。地元で実現できてうれしい、ハッピー、楽しかった。普段選手たちはファミリーみたいだがコンテストは真剣勝負、そして仲間をたたえ合う。みんなでステーキを高める良い大会になった」と話した。

高島平新聞　第675号
令和8年9月15日刊行